

群 教 セ	G10 - 01
	令5.284集
	道徳

# 道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、 自分の考えを深める児童の育成

— 小学校低学年におけるワークシートと

ICTを活用した授業の工夫—

特別研修員 林 さとみ

## I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編では、学習指導の多様な展開として四つの学習指導を挙げており、その中の一つである「多様な教材を生かした指導」においては、教材を学習指導で効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが求められている。

研究協力校（以下、協力校）の第1学年の児童は、発達の段階において自分中心に物事を考える傾向にあり、相手の立場に立って気持ちを考えることに課題が見られる。また、自分の考えを相手に伝えたいという気持ちはあるが、文章で書き表すことへの支援が必要である。

そこで、道徳科の授業で、道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深めることができるよう、小学校低学年におけるワークシートとICTを活用した授業の工夫を行う。その中で、登場人物の心情を考えることや、振り返りで自分の考えを表現することができるよう、二つの手立てに取り組むことで、目指す児童を育成することができると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図

<b>児童の実態</b> ・相手の立場に立って気持ちを考えることに課題が見られる。 ・自分の考えを文章で書き表すことへの支援が必要である。	<b>教師の願い</b> ・相手の立場に立って気持ちを考えてほしい。 ・小学校1年生の実態に合った方法で、自分の考えを表現してほしい。
<b>手立て1 登場人物の心情を考えるためのワークシートの工夫とICTの活用</b> <b>① ワークシートの工夫</b> ・顔をシルエットにして表情を描く 【中心発問用のワークシート】 おおかみは、うれしい顔とかなしい顔とどっちかな？ かんがえよう おおかみのきもちは？ ・吹き出しに言葉を入れる 「いじめていたときよりいい気持ちだな」にしよう。	<b>手立て2 自分の考えを表現するためのワークシートの工夫</b> <b>① 二つの視点から自己評価</b> ふりかえろう ① はげんしたことがあったよ。 ② これからたいせつにしたいことがあったよ。 ※①は多面的・多角的な見方 ②は自分自身との関わり ② 三つのキーワードから自分の考えを文章で表現 じぶんのことばでかこう きょうは、〇〇ということをはげんしたよ。 いままで、わたしは、〇〇だったな。 これからは、〇〇していきたいな。 ※自己評価に合わせてキーワードを選択
<b>② ICTの活用</b> 学級の実態に応じてICT活用の仕方を選択 ○学期はA △学期はB でやりましょう。 ※児童のICT活用の習熟度に合わせて選択をする。	<b>自分の考えを深める</b> きょうは、親切にすると心が温まることを発見したよ。 いままで、親切にできていなかったな。これからは、みんなに親切にしていきたいな！
<b>友達の考えに触れる</b> 泣いている顔をかいた人がいるけどなぜかな？	

目指す児童像 道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深める児童

## 2 授業改善に向けた手立て

道徳科の授業で、道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深めることができるよう、ワークシートとICTを活用した授業の工夫を行うことが有効だと考え次の手立てを設定した。

**【手立て1】 登場人物の心情を考えるためのワークシートの工夫とICTの活用**

**【手立て2】 振り返りで自分の考えを表現するためのワークシートの工夫**

### 【手立て1】について

中心発問の場面では、登場人物の心情を考えるためのワークシートの工夫とICTの活用を行う。ワークシートの工夫は、場面絵の登場人物の顔をシルエットにして表情を描いたり、吹き出しに言葉を入れたりできるようにする。ICTの活用は、教師が、児童のICT活用の習熟度に合わせて、AとBの活用の仕方を選択する。Aは、児童が、紙のワークシートに考えを記入して、タブレット端末のカメラ機能で写真を撮って提出箱に提出する。Bは、デジタルのワークシートに考えを記入して、提出箱に提出する。AとB共に、提出箱に提出された児童のワークシートを基に、全体で交流して友達の考えに触れることで、登場人物の心情を様々な角度から捉えることができる。

### 【手立て2】について

振り返りの場面では、自分の考えを表現するためのワークシートの工夫を行う。まず、二つの視点から自己評価をする。視点は、①話合いをして発見したことがあった（多面的・多角的な見方）②これから自分が大切にしたいことが分かった（自分自身との関わり）である。次に、三つのキーワードから自分の考えを文章で表現する。キーワードは、「きょうは、〇〇ということをはっけんしたよ」「いままで、わたしは、〇〇だったな」「これからは、〇〇していきたいな」である。自己評価と共にキーワードを活用することで、自分の考えを文章で表現することができる。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 中心発問の場面では、ワークシートを工夫したことで、小学校1年生の児童が、いろいろな顔の表情を描いたり、表情に合わせた気持ちを吹き出しの中に入れていたりすることができ、登場人物の心情を考えることができた。さらに、ICTを活用したことで、友達の考えに触れ、自分と似た考えや異なる考えに着目することができ、登場人物の心情を様々な角度から捉え、道徳的価値と向き合うことができた。
- 振り返りの場面では、二つの視点を示したことで、道徳的価値について友達と話合いをして新たに発見したことや、自分自身を見つめ直しこれから大切にしたいことについて、本時の授業を振り返り、主体的に自己評価に取り組むことができた。
- 振り返りの場面では、三つのキーワードを示したことで、小学校1年生の児童が、自己評価で丸を付けた項目に合わせてキーワードを選択し、自分の考えを文章で表現することができた。中には、二つ以上のキーワードを活用して、実際の生活に結び付けた内容で文章に表現している児童もいた。自己評価と共にキーワードを活用して文章で表現したことで、自分自身を見つめ直し道徳的価値についての自分の考えを深めることができた。

### 2 課題

- どの児童も、道徳的価値について自分の考えを表現できるよう、ワークシートを児童の実態に合わせて工夫する。中心発問用のワークシートでは、登場人物の顔のシルエットや吹き出しの大きさを調整したり、吹き出しに罫線を入れたりする。振り返り用のワークシートでは、自己評価の欄に○や絵文字で表現できるようにしたり、振り返り文の行数を調整したりする。
- ICTの活用の仕方について、教師の選択から、少しずつ児童の選択へと移行していけるようにする。

## 実践例

- 1 主題名 しんせつはいいきもち 内容項目B－（7）親切、思いやり（第1学年・2学期）  
教材名 「はしのうえのおおかみ」（出典：「いきるちから1」日本文教出版）

## 2 本主題について

### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、第1学年及び2学年内容項目B－（7）親切、思いやり「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」に基づくものである。親切や思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることであると考えられる。なぜなら、自分のことばかり考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできず、互いが相手に対して親切や思いやりの心をもって接することが不可欠であるからである。小学校1年生の時期の児童は、家庭や学校での大人からの言葉掛けなどから、人に優しくすること、親切にすることは、よいことであるということは知っている。しかし、親切にすることの喜びや、そのよさを十分理解しているとは言い難い。そのため、「褒められるから」「大人が言うから」で親切にするのではなく、親切にすることで得られるよさについてしっかりと考え、理解させ、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てることが大切である。また、今後、この内容項目は第3学年及び第4学年においては、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」へと発展する。

### (2) 児童の実態について

協力校の第1学年の児童は、人に優しくすること、親切にすることは、よいことであると知っていて、友達に対して優しく接している児童が多い。一方で、親切にすることの喜びや、そのよさを十分に理解している児童は少ない。そのため、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるよう身近にいる人との触れ合いの中で、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにしていくことが必要である。これらのことから、本授業を通して、「意地悪をしたときよりも、親切にしたときの方がずっと気持ちがよい」ということに気付かせたい。そして、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てたい。

### (3) 教材について

本教材は、意地悪をしたときよりも、親切にしたときの方がずっと気持ちがよいことを理解させたり、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てたりすることができる教材である。主人公のおおかみが、くまのまねをしてうさぎに親切にする場面での気持ちを考えさせることで、親切への憧れやできるようになりたいという思い、そして、親切にしたときの温かさに気付くことができる適切な教材となっている。また、親切にすることの喜びや、そのよさを理解させることができる。

## 3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、「親切のよさ」について、友達の考えに触れ、自分の考えを深めることができるよう、ワークシートとICTを活用した授業の工夫を行うことが有効だと考え、中心発問の場面と振り返りの場面で、次の手立てを設定した。

### 【手立て1】 登場人物の心情を考えるためのワークシートの工夫とICTの活用

#### 【中心発問の場面について】

- 場面絵のおおかみの顔をシルエットにして、どんな表情なのかを考えさせて描かせる。また、吹き出しに、どんな気持ちなのかを考えさせて言葉を入れさせる（図1）。
- 今回の実践では、児童が、デジタルのワークシートに自分の考えを記入して、タブレット端末の提出箱に提出する。顔のシルエットには表情を手書き機能で描き、吹き出しには気持ちをキーボードで



図1 中心発問用のワークシート  
※実際は、場面絵を活用する

文字入力する。

- 提出箱に提出された児童のワークシートを基に、全体で交流して友達の考えに触れることで、登場人物の心情を様々な角度から捉え、親切のよさと向き合うことができるようにする。

### 【手立て2】 振り返りで自分の考えを表現するためのワークシートの工夫

#### 【振り返りの場面について】

- 二つの視点から、親切について友達と話し合いをして新たに発見したことや、自分自身を見つめ直しこれから自分が大切にしたいことについて、本時の授業を振り返り、当てはまる項目に丸を付けて自己評価をする(図2①)。
- 自己評価に合わせてキーワードを選択(図2②)し、自分の考えを文章で表現すること(図2③)で、親切のよさについての自分の考えを深めることができるようにする。

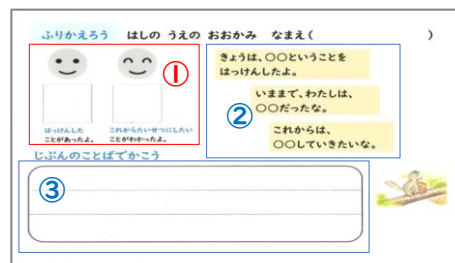


図2 振り返り用のワークシート (A4判)

## 4 授業の実際

導入では、親切に関する動画を視聴し、児童からは、「親切にすると、相手の気持ちを考えたり、困ったときに助けたりすること」という意見が出された。親切に対する児童の問題意識が高まったところで、「親切にすると、どんないいことがあるのだろう」というめあてを設定した。

中心発問までの場面では、うさぎに意地悪をしたときとくまに親切にされたときのおおかみの心情を問い、意地悪を繰り返していたおおかみが、くまとの出会いを通して自分の考えを変えていく変容を捉え考えさせた。

### 展開 【手立て1】 登場人物の心情を考えるためのワークシートの工夫とICTの活用

中心発問では、「うさぎに親切にしたとき、おおかみはどんな顔、どんな気持ちでしたか」と問い、デジタルのワークシートに自分の考えを書いて提出するよう指示した。児童Aは、顔の表情を何度も消したり描いたりしていたが、友達の考えを参考にして、嬉しそうな表情を描くことができた(図3)。児童Bは、嬉しそうな表情に合わせて、「いじめていたときよりいいきもちだな」という気持ちを吹き出しの中に入れることができた(図4)。

ワークシートを提出した後、タブレット端末から友達の考えを共有する際、「おおかみの顔の表情や吹き出しの中の気持ちを見て、気になる友達の考えを見付ける」という視点を与え、児童それぞれが時間を有効に使えるようにした。

全体の交流では、自分の考えを伝えたり、気になる友達の考えを話し合ったりする時間を設定した。児童からは、「自分とは違ったおおかみの顔の表情や吹き出しの中の気持ちを描いている友達が気になった」という意見が出された。名前が挙がった児童の考えについて話し合ったことで、友達の考えに触れ、おおかみの心情を様々な角度から捉えることができた(次ページ図5)。

次に、児童Bの考えをもとに、補助発問「おおかみが、前よりいい気持ちになったのはどうしてか」と問い、うさぎに意地悪をしたときと親切にしたときのおおかみの心情を比較し、なぜ後の方がよい気持ちなのかを考えさせた。児童からは、「おおかみさんが、うさぎさんに優しくして心が温まったから」という意見が出された。さらに、めあてをもう一度考える場面では、児童Cか



図3 おおかみの表情を描きこむ児童A

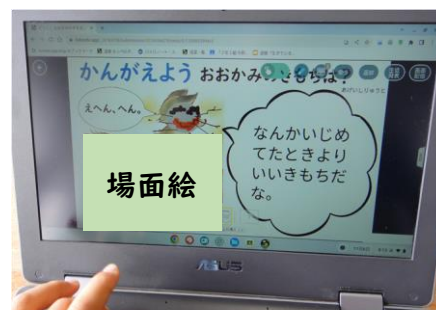


図4 補助発問につながったおおかみの表情と気持ちを書いた児童B



ら、「くまさんが優しくしたおかげで、おおかみさんが優しくなった」という意見が出され、本時のめあてに迫ることができた。全体の交流のまとめとして、「親切にすると意地悪な心がきれいな優しい心になること」「意地悪するよりも親切にした方がずっといい気持ちになること」「親切は心と心をつないでくれること」をクラスで共有したことで、一人一人の児童が、親切のよさと向き合うことができた。



図5 友達の考えに触れる場面

## 終末 【手立て2】 振り返りで自分の考えを表現するためのワークシートの工夫

振り返りの場面では、ワークシートにある自己評価の欄の「発見したことがあったよ」「これから大切にしたいことが分かったよ」の両方に丸を付けた児童が27名中24名いたことから、親切をテーマにした本時の授業が、児童にとって充実した時間であったことが分かった。児童Cは、普段一つの項目に○を付けることが多いが、本時では親切のよさについての自分の考えを発表することができ、自己評価で、二つの項目に○を付ける姿が見られた(図6)。

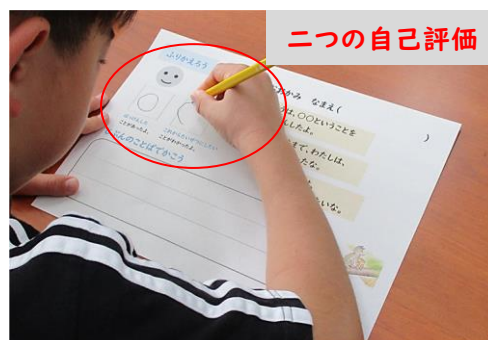


図6 自己評価で二つに丸を付けている児童C

次に、自分の考えを文章で表現する活動では、自己評価の「発見したことがあったよ」のみに○を付けた児童については、一つのキーワードを活用して、「今日は、親切にすると心が温まることを発見した」という内容を記述することができた。二つの項目に○を付けた児童Dは、二つのキーワードを活用して実際の生活に結び付けて、「今まで私は、転んだ子を無視して遊んでいたけれど、これからは転んだ子を助けて保健室に連れて行ってあげよう」という内容を記述することができた(図7)。どの児童も自分の考えを文章で表現することができ、自分自身を見つめ直し親切のよさについての自分の考えを深めることができた。

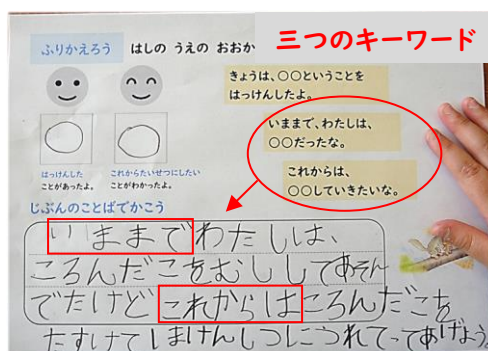


図7 キーワードを活用して自分の考えを表現することができた児童Dの振り返り

## 5 考察

道徳的価値と向き合い、友達の考えに触れ、自分の考えを深める児童の育成を目指し、小学校低学年におけるワークシートとICTを活用した道徳科の授業の工夫を行った。

手立て1では、中心発問の場面で、おおかみの顔をシルエットにして表情を考えさせたことで、小学校1年生の児童も、表情が想像しやすくなり、吹き出しの気持ちを考えることにつながった。また、ICTを活用したことで、友達の考えに触れ、自分と似た考えや異なる考えに着目することができ、おおかみの心情を様々な角度から捉え、親切のよさと向き合うことができた。

手立て2では、振り返りの場面の自己評価で、二つの視点を示したことで、本時の授業をもう一度振り返りながら、親切のよさについて新たに発見したことや、これから自分が大切にしたいことについて、自己評価を主体的に取り組むことができた。さらに、三つのキーワードを示したことで、全員の児童が、自己評価と関連付けながら、自分の考えを文章で表現することができた。文章で書き表すことに支援が必要な児童であっても、一つのキーワードを活用して、振り返りを行うことができた。この活動を積み重ねていくことで、どの児童も、二つから三つのキーワードを活用して振り返りを行い、道徳的価値についての自分の考えをより深めることができたと考える。

今後の展望は、低学年だけでなく他学年においても、道徳的価値についての自分の考えを深めることができるよう、ワークシートを児童の実態に合わせて工夫したり、ICT活用の仕方について、教師の選択から、少しずつ児童の選択へと移行していけるようにしたりする必要があると考える。